

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400012		
法人名	社会福祉法人常盤福祉会		
事業所名	グループホーム万葉		
所在地	栃木県佐野市堀米町1336-1		
自己評価作成日	平成24年2月9日	評価結果市町村受理日	平成24年6月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成24年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して5年目の新しくきれいな施設である。尊敬する気持ちを持つ・優しく接する・責任感を持つ・という3つの事を常に意識してお客様にサービスを提供している。

当ホームは、利用者に「感動満足」を感じてもらうために、「お客様の満足をすべてに優先します」「一人ひとりの生活や思いを大切にします」「プロとして心をこめて行動します」を法人理念として取り組んでいる。同一敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所があり、多職種が連携し合い協力して利用者の支援に取り組んでおり、行事などは合同で盛大に行われている。事業所の広報にも力を入れ、年数回発行される広報誌は行事の写真を中心に、利用者の活動の様子を分かりやすく伝えており、ホームページもバラエティーに富んだ作りになっている。地域の消防団や女性会、老人会、子供会育成会等との交流も活発に行い、多方面の複合施設の良さを生かして地域密着型サービスに取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の基本理念を共有している。万葉に関わるすべての方に感動満足を感じていただけるようなサービスを実践していきたいと思っている。	「お客様の満足を全てに優先します」「一人ひとりの生活や思いを大切にします」「プロとして心をこめて行動します」を法人理念として掲げ、全職員が理念の印刷された社員証を常に携帯し、支援の実践にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設は住宅地に立地している。地域の女性会・育成会・米寿会等と交流があり、イベントに参加していただいている。	自治会に加入しており、地域の祭り際には御神輿がホームの中まで来てくれる。7月の法人の行事には地域の子も達が100人も来てくれた。次年度は事業所独自で地域の保育園の運動会や誕生会に訪問して交流する計画がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。活動の報告等を行い、委員の皆様にご意見をサービス提供の際参考にしていく。	運営推進会議の委員に地域の消防団長を加え、防災の地域協力体制が強化された実績がある。議題の設定に困ることがあるが、出席委員から活発な意見も聞け、サービス向上につなげている。	家族が参加し易い日程や時間の検討、消防署員や警察官の出席など、幅広い参加を得て、より多方面からの意見をもらえるような取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連携をとっている。	施設長が市に書類を届けたり、職員が事務手続き等で市を訪問した際に市担当職員と情報交換を行っており、問い合わせに対しても丁寧に対応してもらうなど、連携は図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体安全委員会に所属し、リスクマネジメントや身体拘束廃止に取り組んでいる。	法人内の身体安全委員会に代表職員が出席し、法律や事例検討を通し具体的な対応を学び、全職員に伝達している。スピーチロックやドラッグロックなど気付かず行ってしまうことがないよう、情報を共有し実践している。ホームは2階にあるがエレベータや玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の身体安全委員会に所属し、虐待防止の取り組みも行っている。		

グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	金銭管理をあすてらすに依頼している方がおられる。職員も関わりを持つようになるので、今後学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ほとんどの方が施設入居の経験がなく様々な不安や疑問があると思うので、その都度質問に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。ご意見ご要望があった場合は可能な限りご意向に沿えるよう検討している。	家族からの要望は随時受け付けている。要望等は職員で検討し、解決ができない事柄については施設長が対応するシステムが確立しており、利用者・家族の安心につながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全員で集まり会議を開催しており、その際項目にあるような意見や提案が出る場合もある。代表者に伝える事で職員の考えが伝わり、すぐでなくてもいづれ反映出来る機会がくると思う。	管理者は、普段から職員の話しを良く聞き、きめ細かく対応をしている。法人の全体会議やホーム独自の会議が月1回行われ、職員が自由に発言する機会が設けられている。また、施設長は必ず毎朝各部署を回り、現状把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で人事考課制度を設け、半年に1度実施している。自分をふり返り施設長に評価をしていただく事で賞与に反映され、向上心ややりがいに繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加している。参加するだけでなく学んだ事を実践に活かし、サービスの向上に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会が少なく、なかなか活動できていない。		

グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では施設での暮らしに慣れる事に重点を置いている。時間をかけて本人と接し職員と良い関係ができ、信頼関係に繋がるような関わりを持つように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望に関しては出来る範囲で応じている。ご本人を職員と一緒に支えていただけるような関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の他事業所と連携をとり、様々なケースに応じたサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の気持ちを持って接し、助言を頂いたりしながら共に暮らしている。介護するというより出来ない部分を支援したりわからない事を減らし、混乱や不安なく生活出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係性を理解し、ご家族のご意向を反映しながらもご本人にとって最も良い支援ができるようはたらきかけている。ご本人だけでなくご家族の状況も変化するので、柔軟な対応を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は特に決めておらず自由に面会できる。行き着けの美容院に行けるよう送迎の協力をして下さる美容師の方もいる。	家族・親戚、元の職場の人や知人等が自由に訪問している。帰宅願望があり、不安定な利用者を自宅に送迎する支援も行い、話し合いながらケアの統一を図り、実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合う方合わない方がいるので、リビングは適度な距離をおいてテーブルや椅子を配置している。		

グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年に一度くらいは連絡を取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の視点や立場にたつて物事を考えるようにしている。発する言葉や行動から思いを汲み取り支援に反映させている。	本人が表出する言葉だけではなく、本当は何を求めているのかを表情などから推察し、全職員で検討し、利用者にとってよりよいケアが行えるように取り組み、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴が入居後の暮らしに影響すると思われるので、入居の際に出来るだけ詳しく聞き取りを行い、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過剰な支援はせず、本人の能力を引き出せるよう心がけている。日々変化する状態に対応できるよう細かな事にも気を配り、自分らしく過ごせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の言動から気持ちを理解し、ご本人にとって良い方向に向かうような介護計画を作成している。時にはリハビリの担当PTを変えていただいた事もあった。	本人、家族の希望や職員に状態を確認し、計画を作成している。アセスメントシートを利用して毎月モニタリングを実施し、1年に1回、場合により随時見直しをして現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は細かく記入している。行動や発言から思いを理解できるので、支援方法の参考になったり、モニタリングにも活用できる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「ご自宅に戻りつつ施設で暮らしたい」という意向の方がおり、家政婦さんの協力を得ながら月・水・金の日中4時間、職員が送迎し自宅に戻るといふ支援を行っている方がおられる。今後も卒に捉われない支援を行いたい。		

グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週1回のヤクルト販売、月2回パンの販売を実施し、好みの物を購入できる支援をしている。品物を配達してくれる商店の活用や、ご希望に応じて職員付き添いのもと買物に行くことも出来る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特別な理由がなければ、入居前からの主治医に継続して診ていただいている。受診はご家族にお願いしているが、状況に応じて職員が同行する場合もある。	基本的に家族に通院介助を依頼しており、日々の状態を口頭で伝え主治医からの指示を受けている。必要があれば管理者が直接主治医に連絡したり、場合によっては管理者が通院に同席し連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心配事がある場合は報告・相談し、介護職員では判断が難しい場合は助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は頻繁に病院に出向き本人の状態を確認するとともに、可能であれば病院スタッフからも情報を得るようにしている。退院時はその後の受け入れ態勢や可能な医療ニーズについての意見交換を行い連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後急変時の対応についてはご家族のご意向を伺っている。状況の変化が予想される場合は早めに対処出来るよう、主治医等と連携を図るようにしている。ご希望があれば看取りも可能である。	家族に随時状況を連絡し、主治医等と密に連携を取り、職員の思いを統一して、これまで4名の看取りを行った実績がある。看取りを目的にするのではなく、馴染みの利用者が重度化した時、本人・家族が望むケアを実践できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な事は身に付けているがまだ未熟であると思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の委員として地域消防団の団長に参加していただいている。また地域女性会とも交流があり災害時の協力を依頼している。	地域の消防団員による事業所見学会を実施し、災害時の協力を依頼している。事業所前の民家の庭を避難場所として、また、物置を食糧備蓄やオムツ等の倉庫として提供してもらっている。	消防団の協力は心強い。事業所が2階にあることから、災害時に備えて、夜間想定訓練や近隣住民の参加による防災訓練を実施し、地域との協力関係の更なる構築に向けた取り組みに期待したい。

グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	信頼関係を築くためにも尊厳の保持は大切だと全職員が自覚している。押れ合いの関係にならず、尊敬する・優しく接する・責任感を持つという3点を重要視している。	自宅ではない場所で暮らしている本人の気持ちを理解し、尊敬と優しさを持つよう職員間で対応を共有している。また、家族からお預かりしているという責任感をもって一人ひとりを尊重するケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の行動や言葉から発する思いを理解する為、スタッフ全員が利用者と話をする時間を多くしたりいつもそばに居よう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間等大まかな決まり事はあるが、個人のペースを大切にしているので強要しない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設に出張して下さる理・美容業者がおり、ご希望に応じてパーマ・カラー等も可能。入浴の際は着用する服を職員と一緒に選んでいるご利用者もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に同じメニューの昼食を摂っており、可能な方は片付けを手伝って下さる。週1回実施しているおやつ作りの際は、職員と利用者が準備から一緒にできるよう支援している。	2名の管理栄養士が法人全体の食事管理を行っており、一人ひとりの好みや状態に合わせて献立を変更することもできる。時には昼食に出前をとったり、外食に出かけるなど、メリハリのある食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は様々あり個別の対応ができる。飲み物に関しても好みの物を提供できるようにしている。必要に応じて管理栄養士と連携をとる場合もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	キッチン内に口腔ケアのできる場所があり、支援の必要な利用者についてはその場で行っている。法人内の口腔ケア委員会に所属しており、研修に参加する事で学習の機会もあった。		

グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在利用者全員がトイレを使用している。可能な限り自立した排泄行為を行う為、残存能力を活かし出来ない部分のみ支援するようになっている。	現在は歩行の介助や声かけで、全利用者がトイレで排泄可能である。定時誘導ではなく、利用者の状況をそのつど確認し、個別にプライバシーに配慮した声かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	法人の農園で作った野菜を調理して食事の際提供している。適切な水分量や乳製品も積極的に摂取するよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい時にできるようにしており毎日入浴する事も可能である。好みに応じて入浴剤も用意してある。入浴したがる方には無理強いせず時間をおいたり職員を変えたりして対応している。	時間は決めず、入浴したい時にいつでも入浴できる支援を実践している。入浴拒否の利用者には時間をおいて声かけをしたり、担当職員の変更や家族から話をしてもらおう等の工夫をし、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みに応じて寝具の持込が可能。日当たりのいい和室があり昼寝をする事もできる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも閲覧できるような場所に保管してある。少しでも変化があった場合は主治医に報告相談をし指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴は入居時に詳しく聞き取りを行い、その後の支援に役立てている。残存能力と職員の協力でできる事を積極的に取り入れ、気分転換や楽しみに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	少しの時間でも外に出掛けられるように努めている。年末にはイルミネーションを見学し感激しておられた。	予定を立てての外出は、利用者に希望を聞きながら計画している。通常は気分転換のために近くの公園や法人の敷地内の散歩を積極的に行っている。帰宅願望が強い利用者には、定期的に自宅に送迎する支援も行い、安心して生活を継続できる支援に取り組んでいる。	



グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお小遣いをお預かりしている。買物や外出の際、職員付き添いのもと使えるような支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じてご希望がある場合は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ごちゃごちゃした物は置かずシンプルな作りになっていると思う。皆様が最も長い時間を過ごすリビングにはあちこちにテーブルや椅子を配置し、一人一人がくつろげるような場所になるよう努めている。	食堂のテーブルは分割し配置を替えることが可能で、好きな場所で食事を取ることができる。広い畳スペースやエレベータ横の椅子は、安心してくつろげる場所になっている。建物内がどこも適温に保たれ、24時間換気システムで快適に過ごす配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	アレンジの利くテーブルを使用しており、状況に応じ形を変えて使用している。落ち着いた事のできる場所の提供も大切な支援と考え、食事を摂ったりお茶を飲んだりする場もリビングにはこだわらない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はプライベートな空間と捉えている。家財道具に関しては好みの物を持参していただいている。ベットの向きや配置についても自由にしてかまわない。	居室には洗面台、ベッド、エアコン、カーテン、照明が設置されており、使い慣れたものを自由に持ち込むことができる。居室は一人の空間として、安心して過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置がある。トイレには目印があり、照明はセンサーにて自動で点灯・消灯する。		